

(1)児童の体力の現状

○体を動かして遊ぶことが好きな児童が多く、校庭でボール遊びやおにごっこ、一輪車などを行っている児童がとても多い。また、冬場には、短なわや長なわとびをして体を動かし、いろいろな技の習得をめざして熱心に取り組んでいる。

●令和元年度は学校全体としてみると、県平均を上回っている種目が(8種目×男女×6学年＝96のうち)「28」であった。平成30年度は「29」であり、前年度よりも「1」減少した。

〈種目別〉

○半数以上の学年で県平均を上回っていた種目は【男子】握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび【女子】握力、上体起こし、長座体前屈、反復横跳びであった。

●半数より多くの学年で県平均を下回っていた種目のうち、【男子】シャトルラン、50m走、立ち幅跳び、ソフトボール投げ【女子】立ち幅跳び、ソフトボール投げの種目は、上回っている学年が1つもなく、これらの種目の向上が課題である

〈学年別〉

○半数以上の種目で県平均を上回っていた学年は【男子】1年と6年であった。

●半数より多くの種目で県平均を下回っていた学年のうち、【男子】2年と5年は、上回っている種目が1つもなかった。

(2)令和元年度の具体目標の達成状況と課題

○「授業の中で運動量を確保することで児童の体力作りを行っていき、新体力テストにおいて各学年で昨年と比べて1つないし2つは上回るようにする」という目標を達成できた学年は1年男子、6年男子、3年女子、4年女子、5年女子、6年女子であった。

○母衣小の伝統である「なわとび」については、例年通り取り組んだ。なわとび集会は2月に行い。12月より朝なわとびとして全校で取り組んだ。熱心に練習に取り組む姿が校内の至るところで見られた。インフルエンザによる学級閉鎖があり、練習ができない期間があったものの、どの学級も練習の成果を発揮し、良い記録となった。

○陸上大会や器械運動発表会の練習を全職員で指導した。全職員で高学年の子ども達を育てていくことができた。

○器械運動発表会に参加する児童による模範演技を披露することで、下級生の運動に対する関心を高めることができた。

●年度当初は体育の授業に関する共通理解が不十分であった。これまでに作成した資料等を使い授業についての共通理解を図れるようにしたい。

●「母衣っ子体操」という学級朝礼に行っている体づくり運動(腕支持や片足立ちなど)の徹底が十分になれなかった。

(3)令和2年度の取組【対策】

①学校における取組

- ・「体育虎の巻」など体育の授業の進め方について職員会等で共通理解を計れる場を設けたい。
- ・「母衣っ子体操」については、学年・学級により取り組みに差がある。年度初めに、取り組みが徹底されるよう確認したい。
- ・小中一貫教育の【すこやか部】の取組として、小学校卒業までに「泳力」「逆上がり」「投げる力」の技能向上を目指す。

②地域や家庭との連携による取組

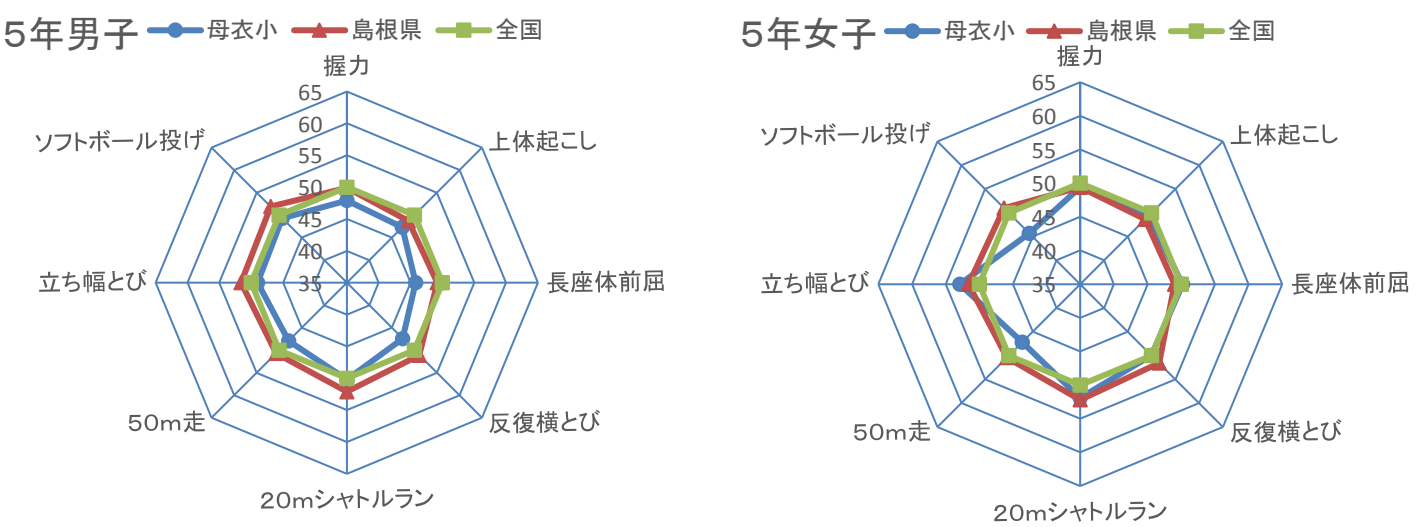
- ・校庭の管理を地域とともにに行い、運動環境の整備を図るとともに、放課後子ども教室等に体育施設を積極的に開放し、運動する場を提供する。
- ・体育ファイルを保護者にも見てもらうことで新体力テストや泳力、なわとびなどの伸びを感じ取ってもらうとともに、「体づくりチャレンジカード」等への取組や、体力向上への意欲付けを図る。
- ・学校保健委員会を開催し、児童の健康や生活習慣について研修を深める。

③体力向上をめざした生活習慣の確立、食育推進の取組

- ・メディアコントロールウィークに家庭と連携して取り組むことで児童の生活習慣を見直すようにする。
- ・「母衣っ子体操」を毎朝行い、学習に向かう体づくりを進める。
- ・日常の給食指導において、偏食や少食の児童が減るよう働きかける。
- ・朝食で野菜を取るよう働きかける。

調査実施者数(人) 1年(男子40・女子40) 2年(男子41・女子55) 3年(男子29・女子37)
4年(男子35・女子40) 5年(男子28・女子37) 6年(男子30・女子52)

(4)5年生 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果(全国平均を50としたときの比較)



(5)全国体力・運動能力調査、運動習慣等調査 5年生意識調査の結果

